

研究計画書

研究計画書の提出日 2024 年 4 月 22 日

研究者氏名、研究者の所属部署、共同研究者氏名、共同研究者の所属部署

<研究者>

渡邊真智子（袋井市立聖隷袋井市民病院 看護部 3 階病棟）

<共同研究者>

村松亜由美（袋井市立聖隷袋井市民病院 看護部 4 階病棟）

岡田史郎（袋井市立聖隷袋井市民病院 リハビリテーション室）

研究テーマ

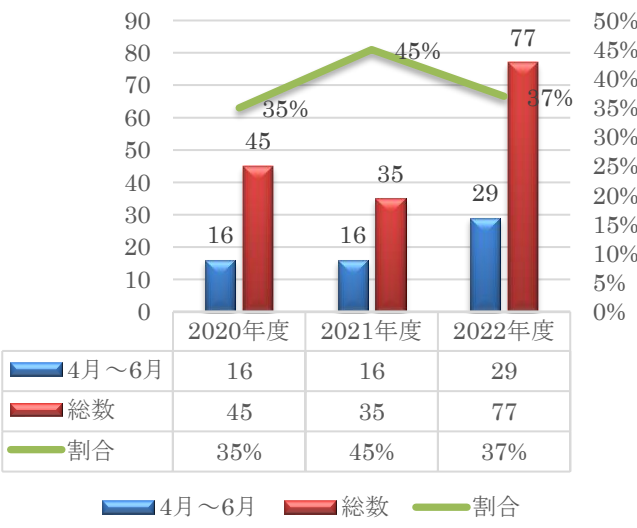
年度初めの転倒数低減のための取り組み

～要因を分析しスタッフ間のコミュニケーションと見守り方のスキルアップで転倒を減らす～

研究の背景・意義

A 病棟では、2018 年に同一患者の再転倒を予防することを目的とし、多職種で構成された転倒検証プロジェクトが発足した。主な活動は、①転倒発生の翌日に、転倒検証プロジェクトメンバーが集まり、転倒の要因分析と個別的な再転倒予防策を立案すること、②定期ミーティングにおいて、A 病棟で発生する転倒症例の要因や推移を分析し、転倒を予防するための活動を実施することである⁽¹⁾。今回、定期ミーティングにおいて、A 病棟内で発生する転倒を月別の発生数で算出したところ、年度初めの、4 月から 6 月における転倒数が他の月と比べて多くを占めていることが分かった。転倒検証プロジェクトメンバーでは、年度初めの転倒数を低減させることを目的に、転倒事例の要因を分析した。

図 1. 転倒総数に占める年度初めの転倒の割合



我々は、年度初めの転倒数が増加する要因として、患者の歩行や移動を見守りしている中での転倒発生数が多いことに加え、スタッフの異動によって、病棟を構成するメンバーが変わり、患者安全の視点で行われるスタッフ間でのコミュニケーションの取り難さがあるのではないかと考えた。転倒検証プロジェクトでは、要因として考えた事についての対策として、①安全な見守りを行うための勉強会の実施

とリーフレットの作成、②スタッフ間のコミュニケーションを促進するための自己紹介ボードの作成と新聞タワー選手権を行った。

取り組みの実施前後で、年度初めの転倒数や転倒の要因を比較し、取り組みの有効性を評価する。

研究の目的

スタッフ間のコミュニケーションと、歩行の見守り方のスキルアップを図る取り組みを行うことで、患者の転倒数低減を目指す。この取り組みの効果について明らかにする

研究方法

※用語の定義 年度初め：本研究では、4月から6月のことを「年度初め」と定義する

1) 研究デザイン

実践報告

2) 研究期間

2020年4月1日から2024年11月末まで

3) データの収集方法・内容・手順

データ抽出の対象

A病棟において、2020年4月1日から2024年3月31日にIAレポートで、「転倒・転落」として報告された患者

4) 研究方法

IAレポートを後ろ向きに調査する。「患者の属性（年齢・性別）」、「転倒転落件数」、「月毎の転倒転落再発件数」、「転倒転落による影響レベル」、「転倒発生時の状況」を明らかにする。データ抽出期間の年度別転倒数と、年度初めに発生した転倒数を算出する。

年度初めの転倒を予防する視点で、実践した活動をまとめ、活動前後で転倒数や転倒の発生状況を比較する。

倫理的配慮

本研究は、袋井市立聖隷袋井市民病院倫理委員会の承認を得て実施する。収集したデータは、本研究以外で使用しない。研究で収集した全ての紙媒体及び電子データはデータ収集を行った順にID化し個人が特定できないよう匿名化を行う。データの抽出から分析の過程でインターネットに接続可能なパーソナルコンピューター上には保存せず、パスワードロックをかけたUSBメモリに保存する。データは院外に持ち出さない。保管は、院内の施錠可能な場所で研究終了後5年間厳重に保管し、その後、電子データは媒体から完全に削除し、紙媒体はシュレッダー処理により粉砕する。

【倫理研修】

渡邊真智子 APRIN RCR/HSR 受講済（#AP0000158766 西暦2019年1月21日修了）

渡邊真智子 日本学術振興会研究倫理eラーニングコース受講済（西暦2024年2月18日修了）

同意書の手続き

本研究は診療録を用いた調査研究であるため、研究対象者から文書あるいは口頭による同意取得は行わない。但し、人を対象とする医学系研究に関する倫理指標で示されている「インフォームドコンセント

を受けない場合において当該研究の実施について公開すべき事項」の公開と被験者または代諾者に研究参加拒否の機会を与えるため、オプトアウトについての資料を提示する。

結果の公表予定

本研究で得られた結果は、第 11 回日本転倒予防学会学術集会で発表する予定である

引用・参考文献

(1) 渡邊真智子,村松亜由美、岡田史郎、鈴木明日香、則次祐美、鳴川貴司、貝久保浩子、二橋宏嘉(2021).A 病棟における転倒再発を予防するための取り組みー転倒検証プロジェクトの活動を通してー.日本転倒予防学会誌,8,(2),136.